

## 大垣に研究開発拠点

キャリア技研 本社機能移転で市と協定

本社機能移転に関する協定締結



協定書を締結した富田社長(右)と小川敏市長(中)、立会人の郷敦岐阜県商工労働部長

【大垣】3次元CAD設計や次世代技術開発などを手がけるキャリア技研(本社名古屋市中村区名駅・オキッドビル4階、富田茂社長)は23日、大垣市と「本社機能移転に関する協定」を結んだ。同市加賀野のソフトウェアジャパン・ドリームコアに研究開発拠点を開設し、4月から3次元

画像認識システム・CAV(Computer Aided Vision)など開発や新事業の創出に取り組む。情報産業が集積するソフトウェアエリアに研究開発拠点を設けることで、CAVの高度利用や用途開発などを促進するのがねらい。開発拠点開設にあたって、岐

阜県の本社機能移転促進事業補助金を活用したのは同社が初めて。

また、同エリア内にある情報科学芸術大学院大学(IAMAS)との連携によって「映像・アート系のITやエンジニアリングを融合した新ビジネスの創出も進めていく」方針。

拠点長となる生産部門技術部の大竹輝幸第1グループ長が4月からIAMASに入学するが、同大学で会社内籍のまま修学するのは初めてで、新たな産学連携のモデルケースともなる。

当初は専任スタッフ6人でスタートし、現地での技術者を養成確保しながら5年後をめどに50人体制に拡充。新製品開発や事業化のめどがついた段階で分離独立させ、同エリア内に新たな拠点を設けて新規事業を立ち上げていく考え。